

第1学年のガイダンスの機能を生かした単位時間の学級活動の指導計画案 《目次》

月	主な行事	第1学年			頁
		題材名	適応 選択		
4	・始業式 ・入学式 ・生徒会オリエンテーション ・3年修学旅行 ・応援歌練習 ・体育祭	1 中学生になって	◎		26
		2 3 中学校とは何か	◎		27、28
		4 学級目標を決めよう	○		29
		5 6 学級組織作り	○		30
		7 選択教科を選ぼう		◎	31
		8 体育祭に向けて	◎	○	
		9			
		10 中学生の学習		◎	32
		11			
12 望ましい学習方法	○	◎	33		
6	・地区中総体 ・期末テスト	13			
		14 私達の将来の希望1		◎	34
		15 私達の将来の希望2		◎	35
7	・県中総体 ・期末面談 ・終業式	16 一学期の反省	○		36
		17 班・係の活動反省	○		37
		18 夏休みの生活設計	○		38
8	・始業式 ・地区陸上大会	19 夏休みの収穫	○		39
		20 二学期の計画		◎	40
9	・地区新人戦 ・中間テスト	21 22 働く人々のすがた		○	41、42
		23 働く人々の仕事と考 え1		○	43
		24 働く人々の仕事と考 え2		○	44
10	・生徒会立会演説会 ・県新人戦 ・文化祭	25 文化祭の取り組み	◎	○	
		26			
		27 人と個性	○	◎	45
11	・（総合「発表会」） ・期末テスト	28 自分の特色、友達の よさ	○	◎	46
		29			
		30 健康で安全な生活	○		
12	・学期反省 ・期末面談 ・終業式	31 二学期の反省	○		(一学期末の反省を準用してください)
		32 冬休みの生活設計	○		(夏休みの生活設計を準用してください)
		33 冬休みの反省と新年 の決意		◎	47
1	・始業式	34 悩みとその解決		◎	48
		35			
2	・期末テスト ・生徒総会	36 進路と将来設計		◎	49
		37 進路計画の必要性		◎	50
		38 進路計画の立て方		◎	51
3	・公立高校入試 ・修了式 ・卒業式	39 学年の反省	◎		52
		40 中堅学年への抱負	◎		53

「注」◎印は、適応や選択にかかわりの深い題材、○印は、適応や選択にかかわりのある題材

1年-1 題材名 「中学生になって」

1 目標

- ア 中学校入学の喜びや希望、抱負などを話し合わせ、中学校生活への不安を和らげ、希望と意欲をもって毎日の生活に臨む心構えと決意をもたせる。
- イ 学級の人間関係作りのきっかけとして、互いを知り、認め合い、みんなと協力していこうとする意識を高める。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **人間関係能力**：④自分から進んでコミュニケーションをとる。⑩級友への理解を深める。
- イ **感情統制能力**：中学校生活や新しい友達に対する不安を取り除く。
- ウ **思考能力**：中学校生活への希望や抱負をもつ。

学年毎の計画案から

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 事前に配付した「自己紹介カード」を用いて自己紹介し合い、級友への理解を深める。
- イ 自己紹介には、**ゲーム形式の活動**を取り入れ、和やかな雰囲気の中で自己開示や他者理解が図られるようにする。
- ウ 新しい生活への不安を取り除き、学級への所属感をもたせて学校生活への意欲を高める。

4 展開

経過	主な学習活動と生徒の反応等
導入 5分	<p>1 入学式を終え、中学生になった感想を発表する。</p> <p>自己紹介をとおして互いを知り合い、中学校生活への希望と抱負をもとう</p>
展開 40分	<p>2 担任の先生の自己紹介を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 担任の先生の「自己紹介カード」に基づく自己紹介を聞く <p>3 生徒同士で自己紹介を行う。</p> <p>(1) 隣の人に名前を伝え、互いに握手する。</p> <p>【自己紹介ゲーム1】</p> <p>(2) 「自己紹介カード」に基づいて、各自が自己紹介をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 次の【自己紹介ゲーム2】のやり方の説明を受けてから自己紹介の活動を行う メモはとらずにしっかりと聞く <p>4 各自の自己紹介を基にして、級友への理解や中学校生活への希望や抱負を深めるためのゲームを行う。</p> <p>【自己紹介ゲーム2】</p> <ul style="list-style-type: none"> みんなの特技や趣味 中学校生活への希望や抱負
終末 5分	<p>5 みんなの自己紹介を聞いての感想や気持ちを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> みんなの素晴らしいところ みんなの気持ち、自分の気持ち 自分の学校生活に生かしていきたいこと

主な指導と援助

5～6名に発表してもらい、期待と不安が交錯している状況を浮き彫りにする。
そして、自己紹介をとおして、級友を知り合い、学校生活への希望や抱負を確かめ合うような活動をするをテーマとして確認する。

担任教師が和やかに自己紹介を行い、自己開示をとおして、生徒との親和関係を築くように配慮する。

【自己紹介ゲーム1】の進め方
・決められた時間内で、男女を問わずできるだけ多くの級友と名前を伝え合い、握手をする。
・教師は計時を行い、あわせて和やかな雰囲気になるように配慮する。

人間関係能力④ と **感情統制能力** に関する工夫
→自己紹介ゲーム 1

【自己紹介ゲーム2】の進め方
・教師が、特技や趣味、中学校生活への希望や抱負といった中からテーマを決め、生徒の発表を聞きながらメモをとる。
・全員の紹介が終わったら、教師が生徒の言葉を取り上げて再現し、生徒はそれが誰のものだったかを当てる。

人間関係能力⑩ に関する工夫
→自己紹介ゲーム2を意識させた自己紹介

先生や級友との関わりの中で感じたこと、考えたこと、今後に生かしたいことを振り返らせる。

思考能力 に関する工夫
→感想や気持ちの発表

5 事後指導

- ・本時で使用した「自己紹介カード」は、全員分を集めて冊子にまとめ、配付する。
- ・本時で紹介し合った中学校生活への希望や抱負を、学級目標設定の活動に生かす。

1年-2 題材名 「中学校とは何か」(中学校の生活1)

1 目標

ア 中学校生活における諸活動(生徒会、学年・学級、班)の組織や内容を理解させ、集団の一員としての自覚のもとに活動していく心構えと決意をもたせる。

イ 中学校での新しい生活に関心をもたせ、集団の中で楽しい学校生活を送るために何が大切か考えさせる。

2 ガイダンスの機能(適応)にかかわる能力

ア **人間関係能力** : 自分から進んでコミュニケーションをとる。

イ **思考能力** : 中学生活への希望や抱負をもつ。

ウ **問題解決能力** : 集団の中で楽しい学校生活を送るための方策を知り、実践する。

3 指導上の工夫(留意点)

ア 小学校との比較をとおして中学校の活動の組織や内容を理解させ、進んで活動に参加しようとする意欲と態度を養うように努める。

イ **対面式の前に本時の指導を行う** ことによって、対面式における生徒会活動の紹介や学級の活動と生徒会のかかわりの説明がより効果的に行われるようにする。

4 展開

過程	主な学習活動と生徒の反応等
導入 5分	<p>1 入学式などでの先輩の行動・姿から小学校との違いの面を感じたことを発表する。</p> <p>中学校の諸活動の組織と内容を知り、楽しい学校生活を送っていく決意をもとう</p>
展開 42分	<p>2 生徒会組織と活動内容の概略について担任の先生の説明を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・執行部の組織と活動内容 ・各種委員会の組織と活動内容 ・地区生徒会の組織と活動内容 ・部活動の状況 <p>3 学年・学級組織と活動内容の概略について担任の先生の説明を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級執行部の組織と活動内容 ・学年執行部の組織と活動内容 <p>4 学級の班組織と活動内容の概略について担任の先生の説明を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班の組織と活動内容例 <p>5 諸活動に参加していく上で大切にしていけることについて話し合い、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自の考えや気持ちの文章化 ・グループでの話し合いと発表
終末 3分	<p>6 本時の活動を振り返り、希望・抱負を含めて感想を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感じたこと、気付いたこと ・生徒会の一員として頑張りたいこと ・先輩が築いてきた校風を受け継いでいくこと

主な指導と援助

5~6名に発表してもらい、先輩の整然とした言動や美しい合唱など、小学校との違いを浮き彫りにする。
そして、そのような活動をしていくための組織や内容がどうなっているかを学ぶことを確認する。

生徒手帳を用い、生徒会役員や各種委員会等の組織と活動内容を説明する。
必要に応じ、生徒会誌を用いて、活動の実際について紹介する。
生徒会の対面式との連携を考えて、説明の内容を絞っておく。

生徒手帳や生徒会誌の活用

生徒会対面式との連携

2~4の各段階で、さらに詳しく知りたいことや疑問点についてはその都度質問させ、適宜補説する。

生徒会や学年・学級の組織と活動内容の概略についての説明を受けて、楽しい学校生活を送っていくためにどんな気持ちで諸活動に参加することが大切かを、グループで話し合わせる。
グループでの話し合いの前に、各自の考えや気持ちを書かせる。
グループは、座席をみながら数名で適宜編制する。司会と発表者も適宜指定する。

人間関係能力 及び 問題解決能力 に関する工夫

→グループでの話し合い

先生の話やグループの発表を聞いて感じたこと、考えたことなどから、中学校の諸活動に対する希望や抱負を確認させる。

思考能力 に関する工夫

→感想や気持ちの発表

5 事後指導

・中学校生活の諸活動の組織や内容の説明を踏まえて、自分のやりたい役職を考えておくよう指示する。

1年-3 題材名 「中学校とは何か」(中学校の生活2)

1 目標

- ア 中学校の学習のあらましを理解させ、日々の学習を大事にしながら進路について具体的に考えていく心構えと決意をもたせる。
- イ 中学校の1日の生活の流れや生活上のルールを理解させ、集団の一員としての自覚のもとに有意義な生活を送っていく心構えと決意をもたせる。

2 ガイダンスの機能(適応)にかかわる能力

- ア **問題解決能力** : 集団の中で楽しい学校生活を送るための方策(相談など)を知り、実践する。
- イ **意志決定能力** : 中学校の学習や活動の特色を知り、意欲的に取り組む。

3 指導上の工夫(留意点)

- ア **学年合同での学級活動**とし、**教科担任の協力を得ながら**中学校の学習のあらましを理解させ、教科や教科担任制への不安を和らげるよう務める。
- イ 中学校の生活上のルールは、特別なことではなく、集団生活の中では当然できなければならない事項であることを強調する。

4 展開

過程	主な学習活動と生徒の反応等
導入	1 中学校の学習や生活に関して知っていることや不安について発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 中学校の学習のあらましと生活の流れや基本的なルールについて知ろう </div>
展開	2 中学校の学習のあらましについて教科担任の先生の説明を聞く。 ・教科担任による自己紹介と教科の紹介 ・中学校の学習についての基本的な心構え ・教科リーダーの役割 3 中学校における学習の意味・役割について考える。 ・義務教育の最終段階であること ・将来の進路実現に直結していること 4 中学校の生活の流れや生活上のルールについて担当の先生の説明を聞く。 ・1日の生活の流れ ・基本的なルール
40分	5 学習や生活などの悩みに対処する、学校の教育相談のしくみについて説明を聞く。 ・教育相談の場や機会 ・教育相談の相手
終末	6 中学校の学習や生活についての説明を聞いて、どんな気持ちでいるかをまとめる。 ・各自で文章化 ・中学校での学習や生活にかかわる決意 ・悩みへの対処

主な指導と援助

5~6名に発表してもらい、小学校との違いや多くの生徒が共通に抱えている不安を浮き彫りにする。
 そして、中学校の学習や生活がどうなっているかを学ぶことを確認する。

学年の学習担当の先生が司会し、各教科担任に簡単に自己紹介と教科の紹介をしてもらう。
 各教科の学習内容や学習方法などにかかわる詳しい説明は、それぞれの最初の授業において「学習のてびき」を用いて行う。
 学習についての基本的な心構えや教科リーダーの役割は、学年の学習担当の先生が説明する。

教科担任の協力

「学習のてびき」の活用

数名に発表させ、それらの価値付けを行う。
 社会の一員として必要な「学力」を最終的に身に付ける場・機会であること、進路について具体的に考えていく必要があることをおさえさせる。

学年の生活指導担当の先生が、「中学校生活のてびき」を用いて説明する。
 適宜質問を取って補説する。
 生活上のルールは、集団生活の中では当たり前の事項であることを強調する。

「中学校生活のてびき」の活用

悩みの相談相手は、学級担任や教科担任、部活動顧問など数多くいることを踏まえ、さまざまな機会をとらえて相談できることを確認する。

中学校生活が始まって間もない今の正直な気持ちを書かせる。
 学習や生活にかかわる心構えや決意及び不安について把握し、事後指導に生かす。

問題解決能力 や **意志決定能力** に関する工夫
 → 自己の考えや気持ちをまとめる作文

5 事後指導

- ・中学校の学習や生活についての作文から個々の生徒の状況を把握し、必要に応じて二者面談や教育相談を行う。

1年-4 題材名 「学級目標を決めよう」

1 目標

ア 「こんな学級がいい」という共通理解を図らせ、集団の一員としての自覚をもって望ましい学級作りをしていくための「学級目標」を設定させる。

イ 「学級目標」作りをとおして、生徒達の主体性と自主性を培い、充実した学校生活を送る基盤を築かせる。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

ア **人間関係能力**：明るく楽しい学級となるよう、思いやりと責任をもって活動する。

イ **思考能力**：こんな学級にしたいという願いや考えをもつ。

ウ **問題解決能力**：よりよい学級集団の在り方を考え、話し合いで目標を決定する。

エ **意志決定能力**：みんなの願いを踏まえて学級目標を決める。

3 指導上の工夫（留意点）

ア 事前に「こんな学級がいい！」のカードに各自の思いや願い（場合によっては父母のもの）を書かせ、それを集計した結果を配付しておき、よく読んで話し合いに臨むようにさせる。

イ 学級目標は学級生活のよりどころとなるものであるから、具体的で評価が可能なものになるようにさせる。

4 展開

過程	主な学習活動と生徒の反応等
導入 5分	1 「こんな学級がいい！」のアンケート集計を確認し、活動のテーマを知る。 みんなの願いを反映させた「学級目標」を作ろう
展開 42分	2 学級目標作り当たりの留意点や担任の先生の願い及び活動の進め方についての説明を聞く。 ・具体的で評価が可能なもの ・担任方針あいさつ内容の再確認 ・学級目標作りの活動の進め方 3 学級目標作りの活動をする。 (1) 数人ずつの任意のグループに分かれ、「こんな学級がいい！」のアンケート集計を基に、グループとしての学級目標の案を考える。 ・各グループの案とその理由 (2) 各グループからの案を基に話し合い、学級目標を決定する。 ・各グループからの案に対する質疑 ・各グループからの案の整理統合や修正 ・学級目標の決定
終末 3分	4 活動を振り返っての感想や決定した学級目標に対する感想を発表する。 ・みんなの意見や願いが込められた ・学級や自分の進むべき道がわかる ・学級組織決めも積極的に行う

主な指導と援助

アンケート集計結果から、学級のみんながおおよそどのような願いをもっているかを確認し、みんなの願いを反映させた学級目標を作ることを活動テーマとする。

思考能力 に関する工夫

→「こんな学級がいい！」のアンケート集計

学級目標は学級生活のよりどころとなるものであるから、具体的で評価が可能なものになるようにさせる。
入学式後の学級開きでの担任方針あいさつ内容を振り返らせ、担任の願いを確認する。
グループごとに話し合っ案を作り、それを全体でまとめていくこと、全体の司会は担任が行うことを確認する。

グループは、座席をみながら数名で適宜編制する。司会と発表者も適宜指定する。
その案を考えた理由についても発表できるように準備させる。

人間関係能力 や問題解決能力 に関する工夫

→グループでの話し合い

各グループから出された案に対し、本時の活動テーマや「具体的で評価が可能なもの」という観点からの質疑をとおして案の整理統合や修正を行い、全員で一つの形にしていく。

問題解決能力 や意志決定能力 に関する工夫

→全員での話し合いと決定

学級目標作りの活動の経過と、自分及び級友の言動を振り返っての感想や、決定した学級目標の下での学級や自分のあるべき姿について考えさせ、発表させる。
次の学級組織作りの活動につなげる。

思考能力 に関する工夫

→感想や気持ちの発表

5 事後指導

- ・生徒各自の「こんな学級がいい」のアンケート集計結果や、決定した学級目標を、通信等で紹介する。
- ・決定された学級目標を教室正面に掲示し、折に触れて学級目標に込められた願いを確認させる。

1年-5・6 題材名 「学級組織作り」 (2時間扱い)

1 目標

ア 「学級目標」に沿った学級作りをするための学級組織の在り方、すなわち、学級経営の基盤であり人間関係を円滑にする基盤となる学級組織の在り方を考えさせ、生徒会活動との関連を踏まえながら、活発に活動できる学級組織を作らせる。

イ 組織は、構成員の協力がなければ機能しないということを認識させ、責任をもって役割を遂行しようとする意欲をもたせる。

2 ガイダンスの機能 (適応) にかかわる能力

- ア **人間関係能力** : 互いの存在や個性を尊重して組織作りを行う。
- イ **感情統制能力** : 自分の希望とは異なる役割であっても、集団の一員としての立場を自覚し、行動する。
- ウ **問題解決能力** : よりよい学級集団の在り方を考え、話し合いで組織を決定する。
- エ **意志決定能力** : 自分にふさわしい役割に進んで取り組み、責任を果たす。

3 指導上の工夫 (留意点)

ア 学級目標決定後に、自分がやってみたい役職を考えさせておく。その際、学級目標のねらいと「学級活動2」で学んだ生徒会、学年・学級、班などの組織を踏まえさせる。

イ 個々の生徒が思いやりと責任をもって活動しようとする雰囲気を作る。また、特定の生徒の孤立や排斥行為などがないように留意する。

4 展開

過程	主な学習活動と生徒の反応等
導入 10分	<p>1 学級目標とその願いを踏まえ、その実現を目指す学級組織を作ること確認する。</p> <p>「学級目標」を実現していくために個々の願いが反映された学級組織を作ろう</p>
展開 85分	<p>2 学級組織作りに当たっての留意点を確認し、進め方について決定する。</p> <p>(1) 学級組織作りに当たっての留意点について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒会とのかかわり ・学年生徒会とのかかわり <p>(2) 学級組織作りの進め方について決定する。</p> <p>ア 役員の決定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・決める役職の順番 ・候補者の擁立と決定の仕方 ・候補者が重複した場合の決定の仕方 <p>イ 班や当番の決定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班の構成と班員の決定の仕方 ・座席の決定の仕方 ・清掃区域や給食当番の割当の仕方 <p>ウ 係活動の決定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な係の種類 ・係員の決定の仕方
85分	<p>3 学級組織作りの活動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級組織作りに当たっての留意点や進め方に沿って決定する
終末 5分	<p>4 決定した学級組織を確認し、組織の中での自分の役割について考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織が機能するように責任を果たす ・学級目標の達成に向けてみんなと協力して活動する

主な指導と援助

学級目標を全員で復唱し、それに込められた願いを確認する。学級目標を実現するための学級組織はどうあればよいかをグループで考えさせ、発表させる。

問題解決能力 に関する工夫
→グループでの話し合い

学級で選出すべき役員や委員などが全校や学年の組織とどのようにかかわっているかを示した組織図を用意し、それに沿って確認する。役員や委員などが決定したら、組織図を拡大し、それに役員や委員名を書き添えて(短冊を作って貼り付ける)学級掲示に生かす。

話し合いによって、学級組織作りの進め方について決定していく。司会は、学級担任の先生が行う。話し合いをとおしてみんなが共通理解することによって協力が生まれ、守られていくことを確認する。

役員の決定については、組織図を基にしながら考えさせる。候補者の擁立については、事前にやりたい役職を考えさせているので、意欲を優先し立候補を原則に進めるように導く。

問題解決能力 や **人間関係能力** に関する工夫
→立候補を原則とすること

係活動の決定については、生徒の意見やアイデアを学校の教育活動の中で最大限尊重することによって意欲をもたせ、活動を活発にさせる。

問題解決能力 に関する工夫
→係活動のアイデア

問題が生じた際は、その都度話し合いによって解決する。

人間関係能力 や **問題解決能力** に関する工夫
→話し合い活動

希望とは異なった役割であっても、集団の一員としての立場を自覚し、明るく楽しい学級となるように活動する決意をもたせる。

感情統制能力 や **意志決定能力** に関する工夫
→自己の考えや気持ちをまとめる作文

5 事後指導

- ・話し合いの様子や、決定した組織について、通信等で紹介する。
- ・決定した役割(氏名)を学級組織図に短冊で貼り付け、学級に掲示する。

1年-7 題材名 「選択教科を選ぼう」

1 目標

- ア 選択教科が設置されている理由と、自校の選択教科の種類や授業時数などについて知らせ、選択教科への関心をもたせる。
- イ 選択教科の選択の仕方について理解させるとともに、自分の願いをもって適切な選択を行おうとする態度を養う。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **思考能力**：中学校生活（選択教科）への希望や抱負をもつ。
- イ **問題解決能力**：選択に迷った際は、より多くの情報を求め、教育相談を受ける。
- ウ **意志決定能力** 及び **情報選択能力**：選択教科の意義と内容を理解して、自己決定する。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア **学年合同での学級活動**とし、**選択教科担任の協力を得ながら**選択教科の学習のあらましを理解させ、選択への関心と意欲を高める。
- イ 選択教科の選択の上での考え方の例として、**2年生の先輩の体験談を生かす**。

4 展開

過程	主な学習活動と生徒の反応等
導入	1 中学校には選択教科があることを知り、選択の仕方について学ぶことを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 選択教科のあらましと、適切な選択の仕方について知ろう </div>
3分	
展	2 選択教科が設置されている理由と、自校の選択教科の種類や授業時数などについて教務主任の先生の説明を聞く。 ・選択教科設置の理由 ・選択教科の種類と授業時数、教科担任 3 各選択教科の学習内容や学習方法、必要な経費や物品などについて、教科担任の先生からの説明を聞く。 ・学習内容や学習方法 ・必要な経費や物品 ・適正人数
開	4 選択教科の選択の仕方について、教務主任の先生の説明を聞く。 ・選択の上での留意点 ・選択教科決定の手順
40分	5 2年生の先輩の体験談を聞く。 ・選択教科の選択の理由 ・選択教科を学んでの感想
終末	6 選択教科の説明や体験談を聞いて、どんな考えでどの教科を選択するかまとめる。 ・希望する教科とその理由・決意 7 (第二希望まで) ・選択に当たっての要望
7分	

主な指導と援助

「選択教科」という言葉を聞いてどのようなことを思い浮かべるか考えさせ、数名に発表させる。

学年の学習担当の先生が司会する。
 選択教科の開設状況については、1年生のものだけでなく、2・3年生の例もあわせた資料を用意し、3年間の見通しをある程度もたせる。

思考能力に関する工夫

→「選択教科」の関連資料

すべての選択教科の概要を一覧表にした資料を用意し、それに沿って説明する。
 教科担任の先生が、独自に資料や授業風景などの写真を用意して説明してもよい。

情報選択能力に関する工夫

→教科担任の協力

選択教科の設置の趣旨に照らし合わせ、自分の意志で選択決定するようにさせる。
 選択教科申込用紙の記入の仕方と共に、決定までの手順についても説明する。
 状況によっては第一希望通りにならないこともあること、決定までの間に随時教育相談を行うことを付け加えておく。

生の声で体験談を聞かせることができない場合は、録音しておいて聞かせる。
 開設されているすべての選択教科について聞かせる。

情報選択能力に関する工夫

→先輩の体験談

選択教科の選択について、自分の考えや気持ちを整理し、選択教科申込用紙にまとめさせる。

意志決定能力に関する工夫

→自己の考えや気持ちをまとめる作業

5 事後指導

- ・正式決定までの間の試行機会や、随時の教育相談を利用し、より適切な選択をさせる。

1年-10 題材名 「中学生の学習」

1 目標

- ア 学ぶことの意義や目的を考えさせることで、将来に希望をもって意欲的に学んでいこうとする態度を育てる。
- イ 生涯学習の場や機会を知らせ、目的をもって学ぶことの大切さについて考えさせる。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **思考能力**：何のために学ぶのかということについて考える。
- イ **意志決定能力**：将来の夢や希望をもち、意欲的に学ぼうという志をもつ。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 学ぶことの目的や意義について、**班毎に話し合い、それを基に学級全体で意見交流**する。
- イ 学ぶことが将来の「生き方」に深くかかわることに気付かせる。
- ウ **生涯学習の場と機会の系統図**を用意し、自己の将来の希望と対照して視覚的に理解できるようにする。

4 展開

時間	主な学習活動と生徒の反応等
導入 3分	1 中学生になってからの学習についてのアンケート集計を確認し、活動のテーマを知る。 何のために学習するのかをみんなで考え、今後の学習への意欲を高めよう
展開 40分	2 中学校で学習する内容にはどんなものがあるかを振り返り、発表する。 ・各教科の学習を中心に考える 3 なぜ、中学校では2番のような学習をするのかを話し合い、発表する。 (1) 教科や学習内容毎に、班で分担して学習の目的や意義について考える。 ・各班で考えた目的や意義 ・教科指導の中での先生の言葉の引用 (2) 各班からの発表を聞き、それを基に学級全体で意見交流する。 ・各班の考えに対する質疑 ・将来の生活や生き方にかかわることを確認する 4 将来の夢や希望の実現のために、中学校卒業後も様々な学習の場や機会があることを知る。 ・中学校卒業後の学習の場や機会を発表する ・生涯学習の場や機会の系統図をみて、自分の将来の希望を対照させてみる
終末 7分	5 本時の活動で考えた学ぶことの目的や意義を基に、学習に向かう際の心構えや決意を短冊に書く。 ・将来の夢や希望と結び付けて ・自分の「生き方」を考えて

主な指導と援助

アンケート結果から、学習の目的や意義をつかめていなかったり揺らいでいたりしている級友がいることを把握させ、学習の目的や意義についてみんなで考えることを活動テーマとすることを確認する。

中学校で学習する教科名等を、思いつくままあげさせる。時間割表によって教科名等を確認させ、それぞれの教科等の学習の内容をだまかに振り返らせる。

各班の分担に配慮し、多様な考えが出されるようにする。学習の目的や意義について、一人一人が考えを発表できるように、場合によっては班の人数を調整する。

思考能力 に関する工夫
→**班毎の話し合い**

各班から出された学習の目的や意義についての考えの中から、共通する部分を確認させる。学ぶことは、将来に深くかかわっていることを浮き彫りにする。

思考能力 に関する工夫
→**学級全体での話し合い**

中学校卒業後の学習の場や機会については、思いつくままあげさせる。生涯学習の場や機会の系統図は、全体提示の後、プリントでも配布し、各自の将来の希望にかかわりそうなものをチェックさせる。

生涯学習の場や機会の系統図の活用

学ぶことの目的や意義としてどのようなことが話し合われたかを、板書等を基に振り返り、それをしっかりと踏まえさせて決意を書かせる。

意志決定能力 に関する工夫
→**学習への心構えや決意を短冊に書く活動**

5 事後指導

- ・決意の短冊を、教室に掲示し、折に触れて振り返らせる。
- ・短冊に書いた決意文を、通信等でも紹介する。

1年-12 題材名 「望ましい学習方法」

1 目標

- ア 自己のこれまでの学習を振り返らせ、問題点を改善し望ましい学習方法と学習習慣を身に付けていこうとする意欲をもたせる。
- イ 苦手教科の克服の工夫について考えさせ、日々の学習を計画的に継続していく心構えをもたせる。
- ウ 家庭での予習・復習の必要性を理解させるとともに、具体的な目標をかかげて学習計画を立てさせる。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **思考能力**：これまでの自己の学習生活を振り返る。
- イ **問題解決能力**：学習計画や学習方法について自ら工夫していく。
- ウ **意志決定能力**：苦手教科の克服や日常の学習を継続するよう努力をする。
- エ **情報選択能力**：自己の学習の反省や級友の反省から学習の工夫を知り、意欲を高める。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア **学習の実態アンケート調査**を実施し、その結果をTPシートや模造紙等にまとめて資料とする。
- イ **先輩の「苦手教科克服法」**を紹介する。
- ウ 学習計画の立案に当たって、具体例として**先輩の学習計画表を提示**する。
- エ **教科担任との連携**を図り、事後指導に生かしていく。

4 展開

経過	主な学習活動と生徒の反応等
導入	1 学習の実態アンケートの結果を基に、望ましい学習の在り方について考えることを確認する。 自分のこれまでの学習を振り返り、望ましい学習方法について考え、学習計画を立てよう
5分	
展開	2 これまでの自分の学習を、チェックシートに基づいて振り返り、問題点を明確にする。 ・学校での学習、家庭での学習 3 学習活動上の問題点を改善するにはどうしたらよいかを、各班で話し合い発表する。 (1) 各自から出された問題点について話し合う。 (2) 各班で話し合われた問題点と改善策を発表する。 4 先輩の「苦手教科克服法」を読み、自己の学習に生かせることをひろい出す。 ・自分の苦手教科を中心に情報選択する 5 先輩の学習計画表を基に、学習計画作成上の工夫点（学びたい点）や留意点について考える。 ・各自が見つけた工夫点について班の中で意見交流する
38分	
終末	6 本時の活動で学んだこと、考えたことを発表し、学習計画作成に向けての決意を高める。 ・苦手教科の克服に向けて努力する ・しっかりと学習計画を立て、毎日の家庭学習を充実させる
7分	

主な指導と援助

- 学習にかかわる悩みや不安などの全体的な傾向として、学習の仕方の問題や苦手教科の問題、学習時間の問題等があげられていることを取り上げ、活動テーマを確認する。
- 学習の実態アンケートの集計結果の提示**
- 机間指導し、問題点を明確にできないでいる生徒には適宜アドバイスする。
- 思考能力**に関する工夫
→ **自己の学習生活をチェックシートで振り返る**
- 班長が司会し、記録者を決めて話し合う。はじめに各自の問題点を出し合い、問題点を整理した上で問題毎に順番を決めて話し合う。班員全員の問題について話し合われるよう留意させる。
- 問題解決能力**に関する工夫
→ **出された解決策をヒントに、自分に合う方法を考える**
各教科毎に2例程度ずつ紹介する。
- 情報選択能力**に関する工夫
→ **「苦手教科克服法」から自分に生かせる方法を選択する**
工夫点（学びたい点）や留意点をつかみやすくするために、良い学習計画表例（先輩作）と悪い学習計画表例（教師作）を提示し、両者を対比して検討させる。
- 先輩の学習計画表（良い例）**
- 学習計画表を配布し、本時の活動を踏まえて、取り組み目標を書かせ、数名に発表させる。
学習計画表の目標以外については、宿題とする。
定期テストを控えている場合は、テスト範囲の一覧表も学習計画表作りの資料として配付する。
- 意志決定能力**に関する工夫
→ **学習計画の目標決め**

5 事後指導

- ・具体的な学習計画の作成は宿題とし、適宜アドバイスを入れて完成させる。
- ・実施状況を毎日記録させ「生活の記録ノート」等に挟んで提出させる。担任は毎日励ましのコメントを入れる。
- ・実施後は、生徒に自己評価させるとともに、保護者からもコメントをもらい、学年通信等で紹介する。
- ・次回の学習計画立案の際に返却し、参考資料として活用させる。

1年-14 題材名 「私達の将来の希望・その1」 (2時間扱いの1時間目)

1 目標

- ア 将来の夢や希望をもつことの重要性を理解させ、その実現への見通しやなすべきことの展望をもたせて学習意欲を高めさせる。
- イ 3年間の進路学習の内容の概略をとおして職業や進路の多様性に気付かせ、将来設計をとおして進路意識を高めさせる。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **意志決定能力** : 将来の夢や希望をもち、意欲的に学ぼうという志をもつ。
- イ **情報選択能力** : 多様な進路及び生涯学習の場や機会を知り、3年間の進路学習の見通しをもつ。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 自分が**就きたい職業とその理由について考えさせ、その結果を集計**しておく。
- イ 友達と将来の夢を発表し合い、進路に対する興味・関心を高める。
- ウ **年表形式の将来設計**を書かせ、将来への展望とそれまでにすべきことを考えさせる。
- エ 将来の夢や希望の実現のための中学校生活の在り方を考えさせる。

4 展開

時間	主な学習活動と生徒の反応等
導入 5分	1 級友の将来の夢や希望についてのアンケートを基に、進路について学習することを知る。 将来の夢や希望を発表し合い、その実現に向けての将来設計を考えよう
展開 40分	2 自分の将来の夢や希望とその理由について発表する。 ・みんなの前で一人一人発表する 3 級友の夢や希望を聞いた感想、級友の考えから学んだことを発表する。 ・みんないろんな夢をもっている ・希望理由が明確な人もいて、参考にしたい 4 自分や級友の将来の夢や希望の実現のために必要なものは何かを考える。 ・学力や資格、適性、適切な言動や礼儀 等 5 早い段階で将来への夢や希望をもつことの重要性を、資料をとおして学ぶ。 ・目標をもっていると張り合いがでる ・プラス思考で生きていくことができる 6 「〇〇先生の年表～教師になりたい」を参考に、自分の将来設計を年表にする。 ・現時点で分かる範囲で将来設計を書く
終末 5分	7 将来の夢を実現させるためにもっと知りたいことや心がけるべきことについてまとめる。 ・自分の適性はどうか ・進路決定までに考えていくべきことは何か ・明確な夢や希望とその理由をもつ

主な指導と援助

級友がいろいろな夢や希望をもっていることを知らせ、将来の職業に関心をもたせる。
自分達の夢や希望を発表し合い、その実現に向けて将来展望することを、本時の活動テーマとする。

級友の将来の夢や希望のアンケート結果

それぞれの夢や希望を温かい気持ちで聞くように留意させる。
希望理由のキーワード等をメモしながら聞かせる。
夢や希望がはっきり定まっていない生徒や、どうしても発表したくない生徒には配慮するが、できるだけ全員に発表させる。

級友のいろいろな考えや夢を認め合う和やかな雰囲気になるように配慮する。
希望理由は、将来の生き方につながるものであることを押さえさせる。

希望の職業の特徴等を考えて、必要なものを話し合わせる。
今の中学校生活が将来の希望に結び付くことに気付かせる。

夢の有無と将来の暮らしや自己評価の資料から、夢や希望をもっていると、将来や自分に対して肯定的な見方ができることを読み取らせる。
野球の「イチロー選手の小学校6年生の時の夢」の資料から、夢はできるだけ具体的にもった方が、実現に向けての努力事項が明確になり、張り合いもでることに気付かせる。

情報選択能力 に関する工夫

→**級友の夢や希望、将来への夢を早くもつことの資料**
将来設計作りをとおして、夢や希望の実現のために、もっと知るべきことがあることに気付かせる。
夢や希望がはっきりしていない生徒にも、仮の希望を決めさせて取り組ませる。

意志決定能力 に関する工夫

→**自分の将来設計**
展開の4・5・6番の活動で考えたこと、感じたことを中心にまとめる。

5 事後指導

- ・教室掲示に進路コーナーを設け、各自の将来の夢や希望、現在の決意や心がけを掲示する。
- ・中学校3年間での進路学習の流れや内容について、班毎に分担して取材させ、次時の学習の準備をさせる。

1年—15 題材名 「私達の将来の希望・その2」 (2時間扱いの2時間目)

1 目標

- ア 将来の夢や希望をもつことの重要性を理解させ、その実現への見通しやなすべきことの展望をもたせて学習意欲を高めさせる。
- イ 3年間の進路学習の内容の概略をとおして職業や進路の多様性に気付かせ、将来設計をとおして進路意識を高めさせる。

2 ガイダンスの機能（選択）にかかわる能力

- ア **意志決定能力**：将来の夢や希望をもち、意欲的に学ぼうという志をもつ。
- イ **情報選択能力**：多様な進路及び生涯学習の場や機会を知り、3年間の進路学習の見通しをもつ。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 進路学習の内容について班毎に調べさせておく。
- イ 進路学習の内容について調べてきたことを発表し合い、進路に対する興味・関心を高める。
- ウ **3年間の進路学習の系統図**（「中学生活と進路」p.34などを基に作成）を用意する。
- エ 将来の夢や希望の実現のための中学校生活の在り方を考えさせる。

4 展開

時間	主な学習活動と生徒の反応等
導入 3分	1 前時を踏まえ、本時は中学校の進路学習がどのように進められるのかを知ることを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 将来の夢や希望の実現に向けての、中学校3年間の進路学習の内容を知ろう </div>
展開 44分	2 進路学習の意義について考える。 ・夢の実現のために3年間の進路学習がある ・進路の学習は、生き方の学習である 3 進路学習の内容について班毎に調べてきたことを発表する。 ・各班の発表 ・各班の発表に対する質疑 4 3年間の進路学習の流れや内容について、先生の補説を聞く。 (1) 3年間の進路学習の流れについての補説を聞く。 ・3年間の進路学習の系統 (2) 1年生での進路学習の内容についての説明を聞く。 ・1年生での進路学習の内容 5 「私達の将来の希望」を学んでの感想をまとめる。 ・自己の夢の実現を目指して今努力すること
終末 3分	6 「私達の将来の希望」を学んでの感想発表を聞く。 ・希望達成を目指して、もっと学習をがんばり、生活態度にも留意する ・自分の生き方を考えて進路学習を進める

主な指導と援助

前時の活動を振り返り、将来の夢の実現のためにもっと知りたいことについて確認する。
 自分達の夢や希望の実現のために中学校3年間で進路学習をどのように行うのかを知ることを、本時の活動テーマとする。

進路の学習（将来を考えること）は、自分の生き方を考えることであり、学級活動の時間だけでなく教科等の授業時間や日常生活でも心がけていくべきものであることを押さえさせる。

班毎の調査内容の分担については、学年や学期毎に区切る。調査の対象は、教師だけでなく、先輩にも目を向けさせる。調査活動そのものを重視し、調査結果が不十分であっても、大目に見て、次の展開4番で補う。

進路学習の系統図をOHP等で示しながら説明する。
 進路学習の内容として、自己理解、進路計画・選択、職業観や勤労観、勉学観、進路情報、啓発的体験、進路相談等があることを説明し、理解させる。その際、進路選択の6つの段階にも触れて説明しておく。

3年間の進路学習の系統図
情報選択能力 に関する工夫
 →進路学習の内容調査と教師の補説

今後の学校生活（学習・生活）に具体的にどのように生かしていくのかを考えて書くようにさせる。

意志決定能力 に関する工夫
 →「私達の将来の希望」を学んでの感想

2～3人に発表させる。
 進路学習の意義と必要性を確認する。

5 事後指導

- ・進路学習のファイルを用意し、進路学習の記録として継続していく。授業の感想を、通信等で紹介する。

1年-16 題材名 「一学期の反省」

1 目標

- ア 一学期の学級の活動を振り返り、成果と課題を明確にして、夏休みと二学期の生活につなげる。
- イ よりよい学級の姿を目指して話し合う。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **思考能力**：一学期の学級の活動を振り返り、成果と課題を明らかにする。
- イ **問題解決能力**：課題を解決し、よりよい学級にするための方策を考える。
- ウ **意志決定能力**：話し合いの決定事項を、二学期の生活で達成させるよう決意する。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 学級目標の願いに基づいて振り返らせる。
- イ 学級の諸活動の改善についてブレインストーミング法で話し合う。

4 展開

過程	主な学習活動と生徒の反応等
導入	1 一学期の学級での生活を振り返って、思い出や感想を述べ合い、活動テーマを確認する。 一学期の学級の諸活動の成果と課題を明らかにして、夏休みや二学期につなげよう
3分	
展開	2 学級活動の振り返りのワークシートに従って、班毎に一学期の取り組み状況を話し合う。 ・生活面の取り組みについて ・学習面の取り組みについて ・行事面の取り組みについて 3 各班で話し合われた結果を発表し合う。 (1) 成果を確認し、讃え合う。 (2) 共通して挙げられた課題点を学級全体で確認し、それらの原因について考える。 ・学習面の課題と原因 ・生活面の課題と原因 ・行事面の課題と原因 4 課題点の解決に向けての話し合いの方法について先生からの話を聞く。 ・ブレインストーミング法 5 出された課題について、その解決法を班毎にブレインストーミング法で話し合う。 ・よりよい学級になるように、考えつくまま活発に意見を出し合う 6 各班の意見を発表し合い、学級としてどうしていくかを全員で話し合う。 ・具体的な行動が可能な形にまとめる
44分	
終末	7 話し合ったことを基に、二学期に向けてみんなが学級を高めていくことを確認し合う。 ・二学期への期待や希望をもつ 8 次時は、一学期の班や係の活動を振り返ることを確認する。
3分	

主な指導と援助

数名に自由に発表させる。
良かったこと、楽しかったことだけでなく、不十分だったこと等もあったことを想起させ、一学期の成果と課題を明確にして、二学期に生かす方策を考えることを活動テーマとして確認する。
本時は、学級全体の反省を行うことを確認する。

班の中で司会者と記録者、発表者を決めて進めさせる。
学級目標の願いを基にしながらか、ワークシートにある項目に従って意見を出させる。

思考能力 に関する工夫

→一学期の活動の成果と課題の話し合い

一学期の成果について、担任からも大いに賞賛する。

問題解決能力 に関する工夫

→学級の諸活動の課題点の原因考察

〔ブレインストーミング法の原則〕
①出されたアイデアに対する批判厳禁
②自由奔放に発言する
③より多くのアイデアを出し合う（質より量を求む）
④多くのアイデアが出されていく過程で、それらのアイデアを組み合わせて改善し、より一層発展させたアイデアを生み出していく（付け足し大歓迎）

問題解決能力 に関する工夫

→ブレインストーミング法による話し合い

学級全員で行動できるような視点で考えるように助言する。

みんなでエールを送り合ったり、円陣を組んで声を掛け合ったりさせる。
時間があれば、合唱で締めくくることが考えられる。

意志決定能力 に関する工夫

→二学期に向けての決意固め

5 事後指導

- ・話し合いの結果を、二学期の学級の具体的な行動目標として、教室に掲示する。

1年-17 題材名 「班・係の活動反省」

1 目標

- ア 一学期の班や係の活動を振り返り、成果と課題を明確にして、二学期の活動につなげる。
- イ よりよい学級の姿を目指して話し合う。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **思考能力** : 一学期の班や係の活動を振り返り、成果と課題を明らかにする。
- イ **問題解決能力** : 課題を解決し、よりよい学級にするための方策を考える。
- ウ **意志決定能力** : 話し合いの決定事項を、二学期の班や係の活動で実行するよう決意する。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 学級目標の願いや各班の目標に基づいて振り返らせる。
- イ 他の班や係に対する要望や提案を考えさせる。

後半の、係の反省にかえて、個人の一学期反省を行うことも考えられる。

4 展開

過程	主な学習活動と生徒の反応等
導入	1 前時（学級の諸活動の一学期反省）を振り返り、本時の活動テーマを確認する。 一学期の班や係の活動の成果と課題を明らかにして、二学期の活動につなげよう
3分	
展開	2 各班毎に、一学期の自分達の班の活動を振り返り、反省用紙に記入し発表する。 ・活動上の成果、班の協力体制等の成果 ・活動上の課題、班の協力体制等の課題
	3 今後、自分達の班で取り組みたい活動や、他の班で取り組んでほしい活動とその理由について、各班で話し合い発表する。 ・自分達の班で取り組みたい活動 ・他の班で取り組んでほしい活動とその理由
	4 3番で出された活動案について質問や意見を述べ合い、実際に取り組んでいく活動を決める。 ・各班毎に出された案を検討し、決定する
	5 各係毎に、一学期の自分達の係の活動を振り返り、反省用紙に記入し発表する。 ・活動上の成果と課題
	6 今後、係活動として取り組んでほしい活動とその理由について、各班で話し合い発表する。 ・今までの係で取り組んでほしい活動 ・新しい係で取り組んでほしい活動とその理由
44分	
終末	7 6番で出された活動案について質問や意見を述べ合い、実際に取り組んでいく活動を決める。 ・各係毎に検討し、決定する
	8 話し合ったことを基に、二学期に向けてみんなが班や係の活動を向上させていくことを確認し合う。 ・二学期の班や係の活動への期待や希望をもつ ・みんなで協力していこうという気持ちをもつ

主な指導と援助

前時に話し合われた、二学期への学級の取り組み目標を再確認させる。
本時は、班や係の活動について、一学期の成果と課題、二学期の活動に生かす方策を考えることを活動テーマとして確認する。

司会者と記録者、発表者を決めて進めさせる。
実行できた活動、実行できなかった活動を明らかにさせるとともに、班の目標に基づいて、活動上の成果と課題、班の協力体制等の成果と課題について振り返らせる。

思考能力 に関する工夫

→一学期の班の活動等の成果と課題の話し合い

他の班の活動を批判するのではなく、二学期の各班の活動をもっと活発にし、よりよい学級にしていくにはどうすればよいかという視点で考えさせる。

問題解決能力 に関する工夫

→他の班に対する要望や提案を考える

班替えを想定させて、どの班に関しても自分のこととして考えるようにさせる。

一人の生徒がいくつかの係を兼務している場合は、そうした生徒の反省活動が重複しないように係を選ぶか、いくつかのグループに分けて反省活動を行う等の工夫をする。

思考能力 に関する工夫

→一学期の係の活動の成果と課題の話し合い

特定の係の活動を批判するのではなく、二学期に向けてよりよい学級にしていくためにどうすればよいかという視点で考えさせる。

問題解決能力 に関する工夫

→他の係に対する要望や提案を考える

組織替えを想定させて、どの係に関しても自分のこととして考えるようにさせる。

各班や係にエールを送り合ったり、円陣を組んで声を掛け合ったりさせる。
時間があれば、合唱で締めくくるとも考えられる。

意志決定能力 に関する工夫

→二学期に向けての決意固め

5 事後指導

- ・各班や各係で話し合われた成果と課題について、反省用紙を増刷して全員に配付し、情報を共有する。

1年-18 題材名 「夏休みの生活設計」

1 目標

- ア 一学期間の生活の反省に立って、中学生としての夏休みの在り方を考えさせる。
- イ 夏休みの意義や夏休みの生活のきまり、夏休み中の行事などを確認させ、夏休みを有意義に送るようにさせる。
- ウ 夏休みの生活と学習の目標を明確にし、それを実現させるための計画を立てさせて、実行する決意をもたせる。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **感情統制能力**：開放感に浸り、不規則・不摂生な生活に陥らないように心掛ける。
- イ **思考能力**：小学校での経験や一学期の反省に立ち、夏休みをどう送るべきか考える。
- ウ **問題解決能力**：有意義な夏休みにするため、しっかりした目標のもとに計画を立てる。
- エ **意志決定能力**：計画に沿って有意義な夏休みを送ろうとする気持ちをもつ。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア 前時までに取り組んだ、一学期の学級や班係の反省を踏まえさせる。
- イ 夏休み中の主な**行事や部活動の予定は、生徒会で一覧に**して配付する。
- ウ 夏休み中の**学習課題等については、教科係が教科担当に確認し、一覧に**して配付する。
- エ 「夏休みの生活のきまり」については、教師から説明する。**学年合同で実施することも**考えられる。

4 展開

時間	主な学習活動と生徒の反応等
導入	1 夏休みを迎えるにあたって、どんな気持ちでいるか発表する。 中学校生活初めての夏休みを充実したものに
2分	2 夏休みの意義について先生の説明を聞く。 ・二学期への大事な橋渡し
展	3 小学校での夏休みの経験や、一学期の学級や係・班の反省を踏まえ、有意義な夏休みにするにはどうすればよいか班毎に話し合う。
	4 夏休み中の主な行事や生活のきまりについて、先生の説明を聞く。 ・関係資料を配付
	5 夏休み中の学習課題について、各教科係からの説明を聞く。 ・課題の一覧表を配付
	6 5番までの説明や話し合いを踏まえて、夏休みを迎えるに当たっての心構えを発表する。 ・開放感に浸ってはいられない
	7 夏休みの計画表作りをする。
43分	(1) 計画表の記入の仕方について、先生の説明を聞く。
	(2) 生活と学習の目標を決める。
	(3) 計画表作りを進める。
終末	8 夏休みの生活と学習の目標を発表し合い、有意義な夏休みにするための決意を固める。 ・規則正しい生活リズムに関する決意 ・毎日の学習時間等に関する決意 ・自治的、発展的な活動に関する決意

主な指導と援助

数名に発表させる。
みんなが楽しみにしていることを確認し、有意義な夏休みにするための生活設計を考えることを、本時の活動テーマとする。

夏休みの意義①社会的体験の拡充、②苦手な教科の克服や得意教科の伸長、③部活動の充実、④健康や体力の増進 等

小学校での経験については、思い通りにいかなかった時のことだけでなく、思い通りにいった時のことも踏まえさせる。

思考能力 に関する工夫

→有意義な夏休みするための班毎の話し合い

「夏休みの生活のきまり」の中でも、健康や安全にかかわる事項は確実に指導する。
適宜質問を受け付けて、指導の徹底を図る。

5番までの説明や話し合いを踏まえ、夏休みを迎えるに当たっての心構えをしっかりとめさせて、計画作りをさせる。

感情統制能力 に関する工夫

→夏休みの生活のきまりや課題等の自覚

具体的で評価が可能な目標、実行が可能な計画となるよう、留意させる。

問題解決能力 に関する工夫

→目標を明確にした上での計画表作り

全員に発表させて、各自のがんばりを誓い合わせる。
最後に、教師が生徒全員へのエールの言葉を述べる。

意志決定能力 に関する工夫

→夏休みの目標を発表し合う

5 事後指導

- ・夏休みの計画表を完成させて提出させ、激励、修正等のコメントを入れる。
- ・期末面談の中で、計画表を基にして夏休みの生活について話し合い、確認する。

1年-19 題材名 「夏休みの収穫」

1 目標

- ア 夏休み中の生活と学習の目標を、夏休みの計画に基づいて振り返らせ、成果と課題を確認させる。
- イ 夏休み中の行事等で感じたことや学んだことを発表させ、共有化させる。

2 ガイダンスの機能（適応）にかかわる能力

- ア **人間関係能力**：自分と級友との交わり方を見つめ直す。
- イ **感情統制能力**：夏休みの生活や学習が不本意に終わっても、その気持ちを引きずらないように心掛ける。
- ウ **思考能力**：夏休みの目標や計画に沿って夏休みを振り返り、成果と課題を明確にする。

3 指導上の工夫（留意点）

- ア **夏休みの計画表を活用**する。
- イ 夏休みの反省用紙を交換し合って、**ピア・カウンセリング**をする。

4 展開

過程	主な学習活動と生徒の反応等
導入	1 夏休みを振り返っての思い出や感想を発表し、活動テーマを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 中学校生活最初の夏休みを振り返り、成果と課題を確認し合おう </div>
展開	2 夏休みの課題や提出物等を提出する。 ・通信票、保健票等 ・教科等の課題 3 夏休みの反省の仕方について、先生から説明を聞く。 ・ピア・カウンセリングの手法を取り入れて、互いの夏休みの成果と課題を振り返ることを知る 4 夏休みの計画表を基にしながら、「夏休みの反省用紙」にしたがって各自で夏休みを振り返る。 ・成果や課題を記入する（クライアント） 5 任意の級友の成果や課題に対するコメントを記入する。（カウンセラー） ・クライアントの成果や課題に対して、アドバイスや励ましを記入する 6 回答を熟読した上で、自分の思いや感想をまとめる。 ・カウンセラーがどんな思いでコメントを書いたかよく考える ・自分の思いや感想を記入する
終末	7 ピア・カウンセリングを取り入れて夏休みを振り返っての、自分の思いや感想を発表する。 ・頑張ったことを認めてもらってうれしい ・不本意だったのは自分だけでなかった ・新しい気持ちで二学期をスタートできそう

主な指導と援助

数名に発表させる。
 有意義な夏休みだったか、そうでなかったかを挙手させ、全体的な傾向を確認した上で、各自の夏休みについていくつかの観点から振り返り、任意の級友同士で互いに評価・激励し合うことを、本時の活動テーマとする。

通信票や保健票等は、担任が提出状況を確認する。
 教科等の課題は、各教科係に、本時の活動終了後に提出状況を確認させる。

カウンセラーになって、級友の夏休みの成果と課題にアドバイスや励ましを考えさせる。
 〈約束事〉
 ・否定的なこと、人がいやがることは書かない
 ・秘密は絶対を守る
 ・カウンセラー（答えてくれた人）を探さない

夏休みの成果と課題を素直に記入させる。
 反省用紙を二つ折りにし、裏に自分だけが分かる印を付けさせる。
 反省用紙を集め、任意の級友に渡るように再配布させる。

思考能力 に関する工夫
 →夏休みの計画に沿った振り返り
 真剣にアドバイスや励ましを考えさせる。
 落ち着いたBGMを流して雰囲気を作る方法もある。
 書き終わったら、二つ折りにして提出させる。
 自分のマークの反省用紙を間違えずに持っていかせる。

次の観点から、自分の思いや感想をまとめさせる。
 ・成果や課題を書いたときの気持ち
 ・成果や課題にアドバイスや励ましを記入していた時の気持ち
 ・回答を読んだ時の気持ち

人間関係能力 に関する工夫
 →ピア・カウンセリングにおけるシェアリング
 数名に発表させる。
 仲間を信じて、前向きに二学期を歩んでいくように促してまとめる。
 「夏休みの反省用紙」に氏名を書かせて提出させる。

感情統制能力 に関する工夫
 →ピア・カウンセリングによるアドバイスと励まし

5 事後指導

- ・夏休みを振り返ってのアンケートを集計し、通信等で紹介する。
- ・必要に応じて個別の相談や指導に生かす。
- ・アンケート集計をストックし、冬休み明けや2・3年での長期休業明けにおける振り返り（比較）の資料とする。